

2022、6、7

直方ミニバスケットボールクラブだより

小さな失敗体験を学びにかえて



子どもは、いつもと同じ状況であれば、いつも通り動くことができますが、何か一つでも状況に変化があると、それだけでとまどい、混乱し、いつもやっていることもできなくなります。思考が止まり、足が止まり、行動が止まります。子どもは、変化する状況への対応やいつもと違う生活リズムへの対応は苦手です。状況に応じて臨機応変に対応するだけの経験値が、まだまだ乏しいからです。不規則な生活リズムを刻むことが多いと、子どもの心身の成長・発達に影響を及ぼすことにつながるというのと同様のことです。平日や次の日学校がある休日の夕刻以降など、夜遅くまで遊んだり、夜更かしをしたりしているのを放置したまま、翌日「勉強を頑張りなさい」というのは無理なことと重なります。

小学校高学年から中学生、思春期にかけて、適切なサポートを受けながら適度に経験を重ねて対応力を身につけていくことが重要です。事前の準備力（心構え、想像、予想、イメージ）、予期せぬことへの対応力（ハプニング、トラブルなど）は、小さな失敗を繰り返しながら、体験と学びを重ねることで身につけていきます。今回の小さな失敗も、子どもの成長・発達にとっては貴重な体験と学びです。今回のことが、次回に活かされれば、また一つ成長です。

学校教育のなかで、子どもたちの学力問題がよくとりざたされ、学力テストなどの点数にばかりが注目が集まりがちですが、**大切なこと（学び）は、「主体性を育むこと」「対話を重ねながら体験的に学ぶこと」「豊かなつながりを育むこと」**です。これらが、学校教育でも、社会教育でも、日常生活でも大切にされていくことで、その子なりの伸び方で、おのずと力をつけていきます。教室であろうと、体育館であろうと、国語や算数であろうと、バスケットであろうと、その教育活動のなかで、いろいろな刺激を受けながら子どもは学びを重ねています。最近の活動のなかでも、次のような点から子どもたちとやりとりをしています。

- ・バスケットコートラインと算数の図形
- ・バスケットの時間ルールや表示と算数の時間
- ・ボールの空気圧（膨張と縮小）や床面の变化と理科の気候の変化や気象の状況（気温・湿度）
- ・バスケット用語と英語
- ・ホワイトボードを使った説明の際の言語や漢字の問題 など

学校の学習内容につながるものがバスケットの活動の中にもふんだんに盛り込まれています。大切なことは日常生活のなかにある、身のまわりにある、自分が今していることにあることを、学校の学習内容につなげて意識化させてあげることです。自分が好きでやっていることのなかに、国語が、算数が、理科が…あるとわかれば、学校での学習に対する興味・関心の持ち方が変わり、意欲的になってきます。

今は、スポーツも自分で科学する時代です。単に運動神経がいいというだけでは、そのうち伸びが止まってしまいます。学習とスポーツは背反するものではなく、「一体」のものとしてとらえられるようになっていきます。そういう意味では二つのものを「両立する」というイメージより、「一体になる」という

イメージですね。

ここからまた活動を通して、子どもたち自身が、自分の成長を確認していきます。